

会 議 録

| | |
|----------------|---|
| 1 名 称 | 平成26年度第3回北九州市子ども・子育て会議 |
| 2 議 題 | ○ 「元気発進！子どもプラン」次期計画・素案の検討について ○ 次回（第4回）会議の一部非公開について |
| 3 開催日時 | 平成26年7月11日（金）14：00～16：30 |
| 4 開催場所 | 生涯学習総合センター3階ホール （小倉北区大門一丁目6-43） |
| 5 出席した者の 氏名 | 出席委員（12名）（◎…会長、○…副会長）（敬称略・50音順） 香月 きょう子 上別府 清隆 北野 久美 ○白澤 早苗 陣内 朋子 添田 重幸 ◎田中 信利 田中 眞弓 中間 徹 中村 雄美子 錦戸 千晶 村上 順滋 出席専門委員（8名） 井上 功 木戸 義彦 黒木 八恵子 平田 久美子 星子 陽子 柳田 克喜 山本 文雄 渡邊 典子 |
| 6 議事の概要 | 次ページのとおり |
| 7 発言内容 | 次ページのとおり |
| 8 その他 | 傍聴者なし |
| 9 問い合わせ先 | 子ども家庭局 子ども家庭政策課 子ども・子育て新制度準備担当 （担当）村上、立石 電話番号 093-582-2550 |

会 議 録

6 議事の概要

- 施策1 母子保健、施策2 母子医療、施策3 子育ての悩みや不安への対応について、資料2、資料3、資料4、資料7に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- 施策4 家庭の教育力の向上、施策5 仕事と生活の調和（ワーク・ライフ・バランス）の推進、施策6 安全・安心のまちづくりについて、資料2、資料3、資料4、資料7に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- 施策1 1 社会的養護が必要な子どもへの支援、施策1 2 ひとり親家庭への支援、施策1 3 児童虐待への対応、1 4 施策 障害のある子どもへの支援について、資料2、資料3、資料4、資料7に基づき事務局より説明し、質疑・意見交換を行った。
- 平成26年度第4回の会議の一部について、非公開で審議することを決定した。

7 発言内容

| 発言者 | 内 容 |
|-----|---|
| | <p>【開会】14:00</p> <p>○ 会議成立の報告</p> |
| 会長 | <p>【議事】</p> <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 10px 0;"> <p>(1) 施策1 母子保健、施策2 母子医療、施策3 子育ての悩みや不安への対応について、資料2、資料3、資料4、資料7に基づき事務局より説明</p> </div> <p>事前に提出された委員の意見書は、今回、この会議では、いかに保育の質を高めて、保育の行革をするかというところがメインで議論されているが、そちらのほうに目が行きすぎて、公的保育という、公的支援を安易に頼ってしまう、そういった親もあるということで、本当に必要な家庭には、当然提供しなければならないけれども、一番求められるのは、家庭での保育ということを考えてみた場合に、若干、それと矛盾というのではないが、負の部分があるということ、十分自覚しながら施策に反映しなければならない。特に、そういった負の部分に対して、どういうフィルタリングをしていくのかということも念頭に置きながら、単に量の確保ということだけに走らずに、施策を検討してもらいたいという意見と承った。</p> |
| 委員 | <p>幾つか質問がある。1点目は、施策（3）「子育ての悩みや不安への対応」では、「身近な地域における子育てを支えるネットワークづくりなど、地域全体で支援する環境づくりを進めます」とあるが、26年度まであった「子育てにやさしいまちづくり推進事業」が、素案の中には挙がっていない。この事業は継続されるのか。</p> <p>私は、NPOの人間ではなく、地域に住んでいる個人として、子育て支援を地元で10年ちょっとやっているが、その地域で「子育てに優しいまちづくり</p> |

会 議 録

| | |
|-----|---|
| 事務局 | <p>推進事業」の支援を3年前にいただいた。まちづくり協議会に補助金が下りたので、地域の役員の皆さんが、あらためて子育てという切り口で、子どもたち、それから子育てをする方々を見つめ直すという、とてもよい支援だった。3年間支援していただき、そのことをきっかけに、それまで有志でやってきた子育て支援の活動の一部が、まちづくり協議会の事業に組み込まれ、まちづくり協議会全体を挙げて、子育て支援の事業に取り組むという効果が出た事業であった。私は、この事業がとても有効だと思っていたのであるが、素案の中に挙がってきていないので、ご質問した。</p> <p>2点目は、素案の中の52ページ、「再掲」というところの一番上の段であるが、「地域でつくる子育て応援事業」とある。これは名前が似ているけれども、どういった事業内容なのか。</p> <p>3点目は、概要の4ページの④に「多様化・複雑化した悩みへの支援」ということで、「子育ての悩みは、社会環境の変化に応じて多様化・複雑化してきており、これまでなかったような悩みも発生しています。これらの悩みに対応し、少しでも軽減が図られるよう、工夫しながら支援に取り組めます」といった文言があるが、具体的に、素案の中でいうとどこに組み込まれるのだろうか。</p> <p>4点目は、素案の53ページ、上から2段目「子育てネットワークの充実」で、事業の概要については、子育てサポーターを養成して、サポーター向けのフォローアップをするだとか、サポーター同士の連携だとか協力を図りますと書いてある。私はずっと、この事業を引っ掛かっていたのだが、「子育てネットワーク」という一般的なイメージと、この事業の概要が、「サポーターさんに特化していないか？」というふうに、頭の中に引っ掛かりがあり、「子育てネットワークの充実」と言えば、もっと地域全体でとか、多業種とか、そういうことをイメージするのであるが、事業内容が、子育てサポーターのことになっているということは、事業名の中にそれが分かるようにしてほしいという、これは意見である。</p> <p>質問の1点目「子育てに優しいまちづくり推進事業」についてお答えする。この事業は、市民センターなどの身近な場所で、主に未就学児童を対象にした子育て支援活動を促進し、地域社会全体で子育てを支援する、子育てに優しい地域社会の実現を目指すものである。</p> <p>その取り組みの具体的なものとしては3つあり、1つ目はアドバイザーの派遣、市民センターやまちづくり協議会に子育て支援アドバイザーを派遣して、いろいろと助言をさせていただくというもの。それから2つ目として、人材育成として、2回の研修会の開催、それと活動事例報告会の開催というものがある。それから、3つ目として、財政支援、活動資金の援助をするというもので、具体的には10団体に5万円を補助するものである。「子育てに優しいまちづくり推進事業」は、5カ年の期限を切らせていただいております、26年度で終了</p> |
|-----|---|

会 議 録

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>することになっている。ただ、これを今後延長するかどうかについては、財政当局との協議や局としての考え方の整理といったものを踏まえて決めていくことになると思っている。</p> <p>施策（3）「子育ての悩みや不安への対応」の施策の柱④「多様化・複雑化した悩みへの支援」については、新しく入れた項目である。本冊の65ページに、対象事業を記載している。</p> <p>この施策の柱には、例えば、「結婚を希望する若者への支援」というような、他の施策の分類に当てはまりにくい事業が掲載されている。これまで北九州市は、いわゆる婚活に関わる事業というものはやってはいなかったが、ニーズ調査の結果、4割を超える方から、行政がそういう婚活支援をしてもいいのではないかという回答があった。そのため、まずは情報提供をしっかりとやりたいと考えたのであるが、こういう取り組みに当てはまる施策がなかったので、悩みや不安や相談のところの1つの柱として追加し、これを盛り込んでいる。</p> <p>そのほか、「不妊に悩む方への特定治療支援事業および不妊等専門相談」という事業については、不育症の相談対応という部分もあるため、並べて2つ掲載している。</p> |
| 事務局 | <p>「子育てネットワークの充実」の質問について回答する。これは、教育委員会の計画として「北九州市子どもの未来をひらく教育プラン」というものがある。その中の「家庭における教育、生活環境づくりの充実」という施策の中の1つの事業で、「子育てネットワークの充実」というものを挙げているものが、そのまま同じ名前で子どもプランにも掲載されている。ご意見は確かにもっともだとは思いますが、子どもプランに掲載する事業名を変更することは難しいと考えている。</p> |
| 事務局 | <p>58ページの「地域でつくる子育て応援事業」も、若干似ているのであるが、母子保健分野で、各市民センターに、毎月「なんでも相談」という形で保健師が行っている。もともと、先ほどご意見のあった「子育てに優しいまちづくり推進事業」は、地域から手を挙げてもらい、実施していただいているものであるが、その底上げの部分で、以前から、母子保健担当が、市の職員として実施している事業がある。その関係で、少し名前が似ているのであるが、やはり地域がやる前に、それだけの基礎的な子育ての悩みを聞くという部分から、地域で子育てのボランティアさんをつくっていくというような、今までの歴史があるので、この基礎的部分に関しては、継続して実施していきたい。</p> <p>委員のご意見は、逆に、ある程度成熟しつつある地域でやれば、もう少し財政支援があれば、まちづくり協議会という形で、その地域の限りある財源</p> |

会 議 録

| | |
|------|---|
| 委員 | <p>の中から、子育てに対して必要性を感じとっていただけるのではないかということだと思うが、この意見は、今後の参考とさせていただきたい。</p> <p>ただし、「子育てに優しいまちづくり推進事業」は、もう5年実施しているので、若干手が拳がりになってきている。同じ地域は3カ年までしか申し込めないため、だんだん、こちらから声を掛けてやっと数が揃うというような状況である。どうしても地域によっては高齢化対策のほうが、力が入っているところもあるので、現在の状況はこのような形となっている。</p> <p>ぜひ、継続していただきたいということだけ申し上げる。なぜかという、やはり子育て支援は、地域でしっかり取り組まないと、結局地域が先細りしていくわけである。何のために子育て支援を地域でやっていくのか。そうしなければ、だんだん地域を担う世代の方たちが、地域で役員さんを請け負わなくなっていくわけである。手っ取り早いのは、例えば、子育て支援をして、自分の子どもが小さいときから地域の方々と出会って、そういう地域づくりの視点もあるわけだと思う。もちろん地域全体で、地域の方たちが、子どもの成長だとか、子育てをされる親御さんの応援だとか、そういうこともとても大切であるが、地域づくりの視点でもとても大切だと思う。そういったことを委員が言っていたらと、ぜひ継続していただけたらと思う。</p> |
| 専門委員 | <p>昨日、大阪から転勤してきていて、また大阪に戻ることにになったお母様が、「北九州市はいろいろと子育て施策が充実していたので、戻るのが不安だ」と言っていたのを聞いて、「ああ、すごくいいのだな」と思ったのであるが、委員の意見も聞きながら、やはり今は道案内が、ひょっとしてとてもいるのではないかなと感じている。</p> <p>ふれあいルームに来られる方100人がいたとして、ふれあいルームのような所に子どもを連れてくる理由は100人全部違う。だが、人と触れ合いたいという気持ちは1つのもので、こういう施策ができるのは、やはりお母さんたちの孤独感というものが、ものすごく大きいなということを日々感じている。例えば、お産で実家に帰ったとしても、本当は見えていただきたいお母さんも働いている、または介護で忙しいということで、実家でお産をしても孤独だと言っている。その孤独感もたらすものというのが、今のいろいろな問題を引き起こしているのだなと感じているので、ぜひ、その方たちに、そういう公共の場に出てきてくださいと言っている。だが、出てこられる方はまだよいが、出てこられない方もいる。たくさんの方の施策があり、子育て情報誌もあるが、その情報誌を開いて、ここにこういうものが載っているよと教えてあげて、ようやく「ああ、そうだったんですね」と言うお母さんのほうが多い。各区で子育てマップも作られているし、先ほどからフェイスブックであるとか、ホームページの充実とか、「子育てマップ北九州」という素晴らしいものがある。だが、</p> |

会 議 録

| | |
|--|--|
| | <p>私の持っているスマホを開いてあげて、「ここにほら、こうやって載っているよ」と教えてあげると、「ああ、そうなのですね」となる。</p> <p>私はいつも、やはり人ではないかと思っている。その間に介在する人がいて、親切に教えてくれて、「ああ、教えていただいてよかった、そうしてみよう」というときに、初めてそのお母さんと私どもも信頼関係が生まれて、「また相談してみよう」と思うという、そういうものが構築されていくなと感じている。その間を担う人材をつくっていくことがとても重要だなと、日々感じている。区役所の受付に行くと、案内の方が立っており、「今日はどういう用件で来られましたか」と言ってくれる。すごく親切に「住民票ですか」とか、「税金のことは何階ですよ」と案内してくれる。本当に、このお母さんは何に不安を持っているのだろう、何がこのお母さんに必要なのだろうというふうに、間をつなぐのが人でなければ、人間というのは孤独になるのだろうなといつも感じる。</p> <p>コンシェルジュに関しては、「子育てコンシェルジュ」ではなく、「保育サービスコンシェルジュ」で、待機児童対策との説明だったので、少し残念だなと思った。子育て支援総合コーディネーターの「ぴあちゅーれ」もあるが、市に1箇所であり、できたらやはり、このお母さんにはこういうものが必要なことをつなげてあげる、つなぎ役の案内人の機能を、どこかの部署で持って、そこに信頼できる人間というものを介在して、子育て支援が進んでいくとよいと考える。</p> <p>国の地域子育て支援拠点事業の中では、利用者支援というものを新しく出しているが、利用者支援は、私はやはり個別支援であるべきではないかと思うので、一人一人のお母様方の不安に寄り添えるような、そこに人の介在する、何か温かなものが流れる支援が、政策としてできればよいと思う。具体的な提案があるのではないが、今、あるものの中で、そういうものを充実されることはできないのかなと日々思っている。</p> <p>今の指摘はもっともで、いろいろな事業があるが、それがユーザーである市民にうまく届いていない。その辺の接続として、コーディネーターなり、あるいは行政職の人がきちんと伝えてあげるようなところまでしないと、せっかく宝物があってもうまく利用されていないというのが現状ではないかと思う。</p> <p>委員の意見書に、私も全く同感であり、拍手を送りたいと思う。本当にいろいろな施策は、働きやすいお母さんという方向に推し進めているような感じがする。やはり、子どもはお母さんしかいないですよ、育てましょう、地域で力を貸しますよ、相談してくださいという感じで、もっともっとお母さんが育てるのだということを、前面に訴えて欲しいと思う。</p> <p>私は民生委員として、赤ちゃん訪問という事業として、生後4カ月までの赤</p> |
|--|--|

会 議 録

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>ちゃんがいるお宅に行って、赤ちゃんの様子や、お母さんがどういう状態で育てているかを見ている。孤立しているような家庭には、「こういうサークルがありますからどうぞ」と、地域のことを知らせたりしているが、そういうことを生まれる時からずっと、お母さん、頑張っていて育てましょうね、サポートしますよというふうに、何かそういう文言を投げかけてあげるといいのではないかなと思う。あまりにもいろいろな便利さがあって、委員のこの言葉が、このまま素通りしていくのがもったいない気がして、もう少し立ち止まって、どうしたらいいかなということを皆さんに考えていただきたいなと思う。</p> <p>幾つか確認したい。</p> <p>まず、1つ目は、この資料3の4ページの20番「わいわい子育て支援事業」について、「施策の柱に体制強化とあるのは良い」という意見は私の発言だと思う。体制強化は望んでいた。なぜならば、予約をしても何カ月待ちとなることが多いということもあり、やっと予約できたら、その時に熱を出したとか、いろいろなことがあるものであるから、この体制強化がありがたいということで、市の意見としても反映しますということであった。そして、素案の33ページの数を見ますと、確かに、平成24年度104回のところ、平成31年度には108回にしますということで4回増えている。減っていないのでよいのだが、4回ですかというのが少し。本当に人員も足りないのかもしれないし、これを配置するのはかなり大変なことかもしれないが、やはり、気になる子どもの早期発見の本当に一つの大事な窓口なので、確かに増えてはいるが、4回しか増やせなかったのはなぜかということを知りたい。</p> <p>それから、発見はした、我が子が少し発達遅れがあるとか発達のもつれがあるということが分かった、では、その支援体制の強化というところが、どこに反映されているかと思って見た。今まで公立保育所が実施している通園事業の組数が10組増えたということであるが、それだけではなく、早期支援というものに対してもう少し、体制強化ということで、施策の柱で打ち出しているのだから、ここは少し考えていただけないかなと思った。</p> <p>2つ目は、フェイスブックなどの情報発信というのは、専門委員の発言のように、人が介在しなければ非常に難しいものがある。これは、本当に平たく説明しなければ、委員の皆さん方に、ピンときていただけないかもしれない。今、スマートフォンを開けば、いろいろなところでいろいろなお母さんの声やいろいろな悩み相談がある。例えば、子育て支援で保育所を開放しているときに、お母様方のグループで、「これいいね」と歓声が上がったのであるが、それはスマートフォンの子育ての悩みの相談の回答に対してであった。その内容は、「うちの子は1歳児で、食べ方がすごく汚くて、テーブルもご飯だらけになるし、あげても放り投げてしまうし、その後の掃除が大変です」というお母さんの悩みに対して、答えは、「お風呂場で食べさせたらいいですよ」であった。</p> |
|----|--|

会 議 録

お風呂場で、裸で食べさせたら、後でシャワーを浴びればいいし、そこにたまったご飯を捨てれば、一挙に解決しますみたいな回答に、げらげら笑いながら、「いいね」と言っていた。そこは開放で、私もいたので、「いやいや、そうかな」とか言いながら、そこは「駄目ですよ」ではなく、「あらあら、どんな意見だったの」と入って行き、「あ、そうだったんだ。あれ、いいと思った？」ということから入り、30分くらい時間をかけて、「そうかな。でも、私はこう思うのだけど」、「では、いずれ先に、大学生になって、トイレでご飯を食べるようになってもいいのかな」とか言いながら、いろいろな例を挙げて話して、「確かに。それは駄目だ」ということで、「これは『いいね』じゃないね」となるまでに、やはり本当に30分くらいでわいわいと話ながらかかった。そういう危険性もある。

メディアの使用を2時間以内にしましょうと言っておきながら、メディアで配信しなければいけない、この矛盾もあるが、でもここで何が言いたいかと言えば、魅力ある支援づくりにしないと、そういった安易な方向に流れてしまうということ。それから、専門委員が言われるように、「この回答は、あるいはこのサイトは、すごく大事だね」という人が介在しないと、現実を分かった方が、そのサイトでご案内するなり、回答するなりということをやっていないと、どこのガイドブックにもあるような、どこの子育てブックにもあるようなものを載せても、それは北九州らしさではなくなるのではないかと思い、その辺の打ち出し方の工夫ということもお尋ねしたい。

3つ目は、これは委員の皆さんに知っておいて欲しいと思うところである。54ページの「子育て支援員の養成と配置」である。これは、私たち保育所が、ずっと長年やっているものである。このまま読むと誤解されてしまうので、あらためて委員の方に申し上げたい。

北九州市社会福祉研修所で子育て支援養成研修を実施している。そして、保育士を子育て支援員として養成して、子育て相談や育児サークルの支援など、地域に根差す保育所として、いかに地域に開放していくか、発信していくか、そういったことをもちろん養成し、私たちはその役割を担っている。しかし、誤解のないように申し上げますが、子育て支援員という人がプラス1でいるのではない。保育士が、通常の保育業務をしながら、この業務をしているということも理解していただきたい。

なぜこのような説明をするかということ、北九州市の施策の中では、たくさん良いことがある。障害児加配もそうである。ところが、障害児で判定を受けた者は、1人加配保育士が付きますという文言でしかない。そうすると、保護者は何を思うかということ、行政側が1人、プラス1で入れてくれるのだろうかというように考えて申請をされる場合がある。ところが現実には、各園の採用に任されているわけである。定員に対して配置基準に則った保育士を雇用しているので、その中に、例えば3人障害児あるいは軽度の障害ということで判定された

会 議 録

| | |
|-----|--|
| 事務局 | <p>ら、1人加配保育士を付けなければならないので、プラス1名をどこから雇用してこななければならない。1対1加配になった場合は、1人保育士を見つけなければならない。そういう実態があるのだが、「加配と書いてあるから、先生よかったですね。市からちゃんと1人来るんでしょう」と言われる。それは大きな誤解で、市が配置してくれるわけではなく、各園の努力によってその人員を配置している。この子育て支援員の養成も、各園の努力によってなされているし、「配置」とあるが、プラス1でその人たちが配置されて、余裕を持ってこういう事業をしているわけではないということを、ここで皆様方に分かっていただきたい。</p> <p>この事業をやっていることを否定しているわけではない。一生懸命やらせていただいている。ただ、それは、通常業務と並行してやっているということも、ここで言わせて欲しい。</p> <p>素案の33ページの「わいわい子育て支援事業」について、平成24年104回から31年度に108回ということで増えていないのではないかという意見があった。回数自体は、小倉南区と八幡西区が月1回実施しているという状況で、これを年間トータルすると108回ということになる。回数自体はなかなか増やしていくのであるが、今現在、実際予約をしてもキャンセルされてしまって、充足率というのは6割くらいの状況で推移している。キャンセルが出たらすぐ次の人を当てるとこの工夫は、もちろんしていきたいと思っている。</p> <p>また、この「わいわい子育て相談」自体は、医者、臨床心理士、保育士のチームで実施するものだが、専門職種をこれだけ集めるのも難しいのが実情である。その他、「親子遊び教室」というのを実施している。この辺りを充実させて、専門機関を受診する間のつなぎという形で力を入れていきたいと考えている。</p> <p>それから、発見をするのはよいが、その後の支援はどうなのかという指摘については、重々もっともだと思っている。これについても、今後、検討していきたいと考えている。</p> |
| 事務局 | <p>63ページの「子育て支援に関する情報発信の充実強化」という事業の中で、ホームページやフェイスブック、情報誌の内容や情報提供方法の充実を図るといった文言がある。その目的は、子育てに関する情報を入手する方法が、親族や友人などからの口コミが非常に多いということもあり、フェイスブックを利用している子育て世帯へ、効果的な情報発信をすることによって、それを自動的にシェア機能など使って、友達に配信していただくことができると考えている。</p> <p>実際7月にフェイスブックの開設しており、発信する情報の具体例として</p> |

会 議 録

| | |
|---------------------------------------|---|
| <p style="text-align: center;">会長</p> | <p>は、子育て支援制度であるとか、手続き等の周知、イベントや講座案内などである。</p> <p>委員が指摘されたように、場合によっては、相手方のコメントによって、不適切な内容が掲載されることもあるかもしれない。そういった場合については、フェイスブック運営委員会で運営ガイドラインに基づきまして、適切に対応していきたいと考えている。</p> <p>もう1つ委員から発言のあった「子育て支援員の養成と配置」に関しては、保育所の自己努力で頑張っているということを十分認識して欲しいということで承る。</p> |
| <p style="text-align: center;">委員</p> | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p style="text-align: center;">(2) 施策4 家庭の教育力の向上、施策5 仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)、施策6 安全・安心なまちづくりについて、資料2、資料3、資料7に基づき事務局より説明</p> </div> <p>素案の74ページに、ブックスタートの事業が載っている。それから、資料3の4ページの17番の意見に、先ほど説明があったメディアの件が出てくる。メディアについては、母子手帳の中で啓発をしているとあるが、多分保護者は、母子手帳を開かないと思う。健診とか、予防接種のところは、必要なので隅から隅まで多分見ると思うが、こうしましょう、ああしましょうと書いてある文章のところ、子育てに役立つであろういろいろなことが書いてあるけれど、それを保護者が読むのかなと疑問に思っている。</p> <p>北九州市は、個別の健診であり、個別の予防接種なので難しいとは思うのだが、他都市では、集団の検診や集団の予防接種のときに、参加者というか、来た方をグルーピングして、待ち時間の間に、このグループは「ブックスタートをもらっていない方がいらっしゃいましたら、ブックスタートをお渡ししますね」と言って、渡すだけではなくて、その本2冊を読んであげる。それから、絵本と接することがどういうことなのかという説明を少しする。第2グループの人は、メディアとの関わり方について10分くらい、短い時間で紙芝居的なもので啓発をする。あとのもう1つのグループは、実際に予防接種を受けていたり、健診の時間だったりするというような、予防接種に来る機会をチャンスと捉えて、実際に実施しているところがある。</p> <p>それだと北九州市では、少し難しいなと思うが、これは施策がどういうのではなく、運用の問題なのだが、例えば、「なんでも相談」に来た方に、「ブックスタートもらっていますか」とか、メディアのことについても、10分くらいの紙芝居を作って、「こんな影響がある」とか、「だからどんどん市民センターで遊んでね」、「これで遊んで」みたいなメッセージを運用していくことは可</p> |

会 議 録

| | |
|------|---|
| 事務局 | <p>能ではないかなと思う。できればそうしていただきたいと思っている。</p> <p>それから、素案の 58 ページの中に、「市民センターを拠点とした健康づくり事業」が「再掲」として挙がっている。これが子どもプランに載ることの意味は何だろうか。現状は、地域の中で、子育てとか、子どもとかを対象とした事業ではなく。健康づくり事業愛好会や健康づくり食育講座みたいなものがされているというのが現状だと思う。</p> <p>これも、施策がどうというものではなく、運用というところであるけれど、この事業の概要の中に、例えば、子どもの視点とか、子育てサークルを巻き込みましょうとか、子育てサポーターを巻き込みましょうとか、そういったことを少し入れておけば、まち協の方が、そういう人を入れて実行委員会をしなければいけないのかと考えてくれると思うので、できればそういった文言を入れて欲しいという意見である。</p> <p>ブックスタートの関係で、北九州市は個別健診なので、そこでは、なかなか指導できないかとののではないかという意見をいただいた。「なんでも相談」でいろいろ話題にしたりとか、「のびのび赤ちゃん訪問事業」であるとか、母子健康手帳を交付する際に一人一人時間をかけて話をさせていただくので、その中で説明するポイントの1つに取り入れたりということで、いろいろ参考にさせていただきたい。</p> |
| 事務局 | <p>「市民センターを拠点とした健康づくり事業」については、担当課が今日には出席できなかったのですが、この場での回答は難しいが、事業としては非常に幅広い事業だと思う。あくまでも高齢者だけを対象としたというものではなく、子どもから大人までという事業である。子どもプランの中に掲載しているのは、そういう意味である。ご意見は、担当課に伝えたい。</p> |
| 委員 | <p>私は、市民センターを拠点とした健康づくり事業の校区の医師として出ている。うちの校区は高齢化率が 30%以上くらいあるような地域であるが、小学校の校長先生や教頭先生、PTAの方とかも入っている。この文言をきちんと書いていただいて、そういったことを多くの市民センターが認識するようにしたらよいのではないかと。</p> |
| 専門委員 | <p>全体的な、抽象的な話になってしまうかもしれないが、ワーク・ライフ・バランスについて、これは社会であるとか、企業であるとか、父親である男性の意識などを変えていかなければならないということで、大変、時間がかかる課題なのかなと思っているので、根気強く施策としても、ぜひやっていただきたいと思う。なかなか、一朝一夕に変わるもの、実現できるものでは</p> |

会 議 録

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>ないというのは、皆さん、非常に実感としてお持ちかと思う。それでも、やはり子育てと仕事の両立というのは、非常に大事だと私は思っている。</p> <p>子育てはすごく大事で、家庭が子育てにおいては第一義的に責任を持つべきだという意見が先ほどから出ている。母親と子どものつながりというのも非常に大事だということも、分かっているが、ただ、母親だけが子育てを一手に引き受けて全責任を1人で担うというような形が、今まですごく強かったのではないかと私は思っていて、それは、変わりつつあるというふうに私は希望を持っている。</p> <p>その中で、仕事をする女性というものが、例えば、これまでの会議の意見などでも、仕事を、子育てをしている女性が、本当は男性も同じように課題として持たなければいけないであるが、子どもが病気になった時に休めないというような場面というのは、多々あると思う。もちろん、休みたいと思っている母親、父親はたくさん、当然いるのだけれども、それができない事情というのは、それぞれ個別にあると思う。それが、いつでもできる仕事しかもうできないんですよと。子育て中はそれしかできないんですよという社会が、私はそういうふうに、どちらかの、主に母親にそれを期待することになってしまう社会は、非常に息苦しいというか、生きづらい社会ではないかなと思っている。</p> <p>まずは、企業が、子どもが病気の時に、父親なり母親に理解を示して、休みやすい雰囲気をつくっていただくということが、大事だと思うのであるけれども、それがそんなに早急に課題としてクリアできないという現状は必ずあると思う。両方の親が働かなければいけない家庭はたくさんあるし、当然、ひとり親家庭の場合は、働かなければ生活ができないわけである。特に母子家庭というのは、貧困の課題などもあり、より収入が得られるような仕事を求めて、皆さん努力をされていると思う。そのような中で、いろいろな支援が充実していくということが、親が無責任になっていくとか、子育てが他人任せになっている、それが親子のきずなをどんどん薄めているというようなものとは、少し違うような感覚を私は持っている。</p> <p>やはり、北九州市の持っているような、子育ては親が一義的にあるとしても、それは特に母親1人が担うものではなく、父親、または地域、そして行政の支援があって、みんなで子育てをしていきたいと思いますというものだと思うので、先ほどの話に少し違和感を持ったので、ワーク・ライフ・バランスと絡めて、仕事と子育てが自信を持って充実できるような施策を、根気強く続けていただければと思う。</p> <p>ワーク・ライフ・バランスに関係することかもしれないし、また家庭教育に関係することかもしれないが、父親像、私は、今のお父さんたちには「お父さんというストーリーがない」と。私の言葉で申し訳ないのですが、お父さん会とか、父親の集団をいろいろなPTA団体が作っていると思うが、なかなか参</p> |
|----|--|

会 議 録

加は少ないと思う。絶対に参加しないという引っ込み、どちらかというところと照れ屋さんのお父さん方のグループもやはりある。

私は、たまたまこの間、そこに入り込んだのだが、これは幸いと思って入り込んで、その時に、「あ、面白いな。やっぱりそうなのか」と思ったのは、「父親って、何をしたらいいんでしょうかね」から始まるのである。ハウツー物は幾らでも出てくる。お父さん育児参加、こんなものがないというハウツー物はたくさんあるのだが、いやアイデンティティとして、お父さんはどうあるべきなのかというところで、みんな悩んでいると思う。お父さんたちのグループに入って来たら、いろいろな言葉、お父さんのストーリーはいっぱいあるぞというのに出会っていないと思う。

先ほどから話題になっている「つなぐ」。いろいろな素晴らしいサービスがあるのに、そこにつないでくれる人がいない。これも、お父さんの問題、ワーク・ライフ・バランスの問題も何か同じようなところがあると思う。こういう時は、父親も仕事をほったらかしてでも出て行くほうが、家族には賛同を得られるんだぞとか、そういった型が見えていない人が、すごく実は多いのではないかなと思う。

そこに、育児参加、育児参加と言っても、多分、私などはいじめているような、集団いじめのような気がしてならない。何かもう少し、お父さんたちに寄り添えるような施策というか、そういった役割を担ったような人はいないだろうとかということをし少し思う。思っているほど男は強くないという、そういうような話だと思って欲しい。

それから、家庭教育のことについてであるが、素晴らしい講演会や研修はたくさんあると思う。私は、これは大いに結構なことだと思うのであるが、先ほどから話題になっている、つないだり、引き寄せたりという役をする方は、PTAの皆さんが、実は一番適任ではないかなと思う。保育園や、あるいは幼稚園や、小学校、中学校、そういったPTA活動をやっている中でいろいろな経験を持った人がつないでいける、そういった勇気が湧くような研修会というのはできないのかなと思う。知識を得て、知識が物とするならば、いろいろな物をたくさん頭の中に詰め込みましたというよりも、心がわくわくして、「よし、私、社会、まちづくりのために頑張ろう」というような、そんな内容のソフトウェアを引き出すようなきっかけづくりの活動、研修会、事業展開というのができたら、私は、町は変わっていくのではないかな。言葉は悪いけれど、リーダーでなくていいのである。リーダーシップを持てるような人が、たくさん育つようなきっかけづくりというのを、PTAとか家庭教育でやれたらいいのかなと思っている。

お金とこれだけはしないといけませんと言われると、何か研修会をすぐ、ほんと持って来て、「はい、事業終わりました」というと、まるで、先ほどから話題になっている、冊子に作ってこの事業は終わり。違う。冊子を読んでもら

会 議 録

| | |
|----|--|
| 委員 | <p>って、初めて完成だろうという。そこを何かこう、ソフトが、これだけ1万人も市の職員がいるのだから、すごい知恵はないのかなと思う。</p> <p>今の委員の意見に対してであるが、とあるNPOで、コミュニケーションセミナーというものをやっている。これは、夫婦で参加していただいて、妻はこう思っているけれど、夫はこう思っていたところを吐き出させつつ、それをどうやって2人で乗り越えていくかと。ワークを4回くらいで積み重ねていって、まずは、妻が、妻か夫か分からないけれども、言いたいことを言えるようになるというところから始まり、そして、どこだったら擦り合わせられるか。平行線なのかとかいうことを手繰っていくようなセミナーをしているNPOがある。それは、本当に最後満足度がとても高く、前向きな気持ちになれたというような感想がある。</p> <p>やはり夫婦が100組いれば100組通りの関わり方というのがあると思う。家族の関係とかもそれぞれ持っている、妻が持っている家族関係、夫が持っている家族関係も、100通り多分違うと思うので、その価値観であったり状況というのがやはり違うと思うので、そういったワークショップ形式のトレーニングがあると、子育てにおいてもとてもいいのかと思う。多分、子育てで夫が大事にしたいと思っていることと、妻が大事にしたいと思っていることが、成長の段階においてすれ違ってくると思う。そこも、本当は擦り合わせなければいけないのを、どちらか一方に合わせていたり、何かことが起こってから考えたりするので、いろいろなことが問題となっていくのだと思うが、そういったトレーニングができる機会があればよいのではないかと思った。</p> |
| 委員 | <p>今の意見は面白いと思う。夫婦で受けるセミナーとか、ワークとか。お父さん学級とかお母さん学級とかいうのがよくあると思う。よく、映画などで、夫婦でカウンセリングを受けるというシーンを、今ふっと思い出したのだが、社会の最少単位である家庭、その中心になる夫婦が2人で作り上げていくためには、この2人をどうするかという、私たちはどうするかという学びの場というのがあるのか。今の話を聞いて、うちの幼稚園でやってみようと思った。</p> |
| 委員 | <p>74 ページに「親子ですすめる食育教室」という項目がある。これは、幼稚園でも保育所でも実施しているものである。これは、お父さんの参加も多い。午前中の活動なのだが、ご夫婦で見えているところがたくさんある。気になって、その方に聞くと、やはり公務員の方だとか大手企業に勤めている方とか、そういう方たちなのである。要するに、休みを申請したら、きちんと休みがとれるところなのである。</p> <p>だが、やはりお父さんが来て、子どもにとっての食育というものに興味を持つということは、非常にありがたいことである。そして、これをきっかけに、</p> |

会 議 録

| | |
|----|---|
| | <p>うちの園でもおだしのブラインドテイストを試してみたり、あるいは、簡単朝ご飯についてレシピを配ると、逆にお父さん方のほうが、「これ、先生、どうするんですか」というようなことで、結構、興味を持たれている。だから、興味もあるし、関心もあるし、やりたい気持ちもあるので、そのきっかけには、やはり、こういうことを地道にしていくことなんだと思う。なので、これは、先細りしないで形を少し変えながらでも継続をして欲しい事業である。</p> <p>それから、参観日等々、それから送迎も、保育園のほうでは、お父さんはかなり来られる。どちらかといえば、ラッシュになるのは、ほとんどお父さんが多くて、お父さん同士で情報交換等しているの、思うほど、お父さんは参加していないということではないけれど、多分、見えてこなかったりするのだろうなということもある。そういうお父さん方が来られた時には、話をする機会を持つようにしているので、何か本当にこういう地道な取り組みなどは本当にありがたい事業である。</p> <p>また、先に言ったように、大手企業などは休みが取れるけれど、やはり、中小零細企業の方が休みを取りにくいということもあるので、こういうことは、やはり企業への呼び掛けを、もう一つして欲しいと思う。</p> |
| 委員 | <div style="border: 1px solid black; padding: 10px; margin-bottom: 10px;"> <p>(3) 施策 1 1 社会的養護が必要な子どもへの支援、施策 1 2 ひとり親家庭への支援、施策 1 3 児童虐待への対応、1 4 施策 障害のある子どもへの支援について、資料 2、資料 3、資料 4、資料 7 に基づき事務局より説明</p> </div> <p>施策 1 4 についての意見として、やはり、障害児の方がいかに皆さんと一緒にやっていけるかというところで、私としては、みんなと一緒にやっていけるような形にしていきたいと思う。</p> <p>もう一つ、先ほどワーク・ライフ・バランスの話があったので、事業会社として、少し意見を言わせていただくと、やはり男性の取り組みが悪いということについて、会社としてもいろいろ対応をやっているのであるが、子どもが産まれる前に、父親に対する教育を、できれば医師からやっていただくのが、一番男性としては受け入れやすいのではないかと思うので、そのような支援があればよい。</p> <p>どの施策とかということは分からないのだが、とある発達障害のシンポジウムに自分が参加者として参加した時に、障害児を持つお母さんが登壇者の方に、自分が置かれている立場とか、気持ちをぶつけられた発言を聞いた。その内容は、まず、発達障害のある子どもをお持ちのお母さんが再婚をした。再婚をしたお父さんが、その発達障害のことを理解できずに、それはただの甘えだ</p> |

会 議 録

| | |
|-----|---|
| | <p>というような認識で、とても厳しいしつけをする。そのお母さんは、子どもの成長・発達はずっと見守りたいという思いはあるけれども、せっかく再婚をしたところなのに、また離婚をしなければいけないのではないかということがあり、とても悩んでいるということをつづけていた。</p> <p>発達障害児を抱えている家族というのが、もちろん虐待になりやすいというふうには、私も日々相談の中で受けている。また、ステップファミリーの問題もあり、それからひとり親になりたくないと思っているという感情と、何かすごく、「ああ、複雑だな、この方の支援、どうしたらいいのかな」と思った。そういった対応というのは、どこの窓口がというか、どのサービスがその方に適切なのかということを確認したい。</p> <p>その方は、相談するところがないと言っていた。私は、区役所の窓口で複合的な相談もできると思ったが、他にどういった手だてがあるかなということで質問したい。</p> |
| 事務局 | <p>再婚相手の方が、しつけが非常に厳しいということで、その程度にもよるかとは思いますが、実際に子どもが、しつけの厳しさで心理的に虐待を受けているとか、例えばずっと座らせてとかいうことであれば、身体的虐待にもなる。</p> <p>そういった場合、児童相談所の虐待対応ということで行っており、その中にペアレントトレーニングというものがある。虐待する親御さんについては、やはり何らかの、自分もそういった厳しいしつけで教育を受けてきたといったような、叩いて育てるものだとか、偏った考え方を持った方もいるので、あくまでも本人というか保護者の方の理解があった上ではあるが、どうしてそういった育て方になるのかとか、子どもにとっていい褒め方とか、関わり方とか、そういったことを支援していくペアレントトレーニングというものを行っているので、そういったことも紹介していただきたい。</p> |
| 委員 | <p>その方は質問した時、とても感情的であった。その方が、ペアレントトレーニングを受け入れられるようになるまで、まだ多分、感情を吐き出すという作業までが終わっていない状況で、まずその感情を、治まるようになるまで聞くところはどこなのだろうか。また、そういったペアレントトレーニングがあるよということを説得されるのはどこになるのか。</p> |
| 事務局 | <p>子ども総合センターには、24時間の子どもホットラインというものがある。こちらに電話をかけていただいて、相談員が皆様方の、子どもだけの問題でなくても、いろいろな相談を受けている。その中で、例えば継父の虐待の部分があれば、そこは子ども総合センターにつなぐとか、どうしても、今すぐどこかに逃げなければいけないという状況になっても、こちらの課長、係長が対応して、実態としては一時保護したりすることもある。</p> |

会 議 録

| | |
|------|---|
| 専門委員 | <p>相談については、まず、感情的になられるということで、とにかく電話で、大体 30 分か 1 時間くらい話をしてくる。それを傾聴して、落ち着いたところで、子ども総合センターに相談したらどうかと。もし、その方が匿名で非通知であれば、なかなか我々もつかみにくいのであるが、名前とか区とかを言っていただければ、ある程度特定することができるので、そこで我々が介入して、そのお母さんに接触を図って、今の悩みや状況がどうなのかということを知りたい。もしその中で虐待ということが出てくれば、我々が介入して、お父さん、お母さんと呼んで指導をするというような形をとっているというのが、現状である。</p> <p>今の話は、かなりいろいろな含みがあるケースかと思う。発達障害者支援センターでも、急にいろいろなことということはないだろうが、そのお母さんの悩みどころに添っていくということから始めていくということで、うちを紹介していただいても大丈夫である。</p> |
| 事務局 | <p>各区役所に子ども・家庭相談コーナーがある。ここでは基本的に子どものことでも家庭のことでも、どんな相談でも受けるといっている。ここから、場合によっては、発達障害者支援センターであったり、児童相談所であったり、状況によっていろいろなところへ話をつなぐという形になる。北九州市では、こういうところに相談していただければと思う。</p> |
| 会長 | <p>結局、そういうところが市民にきちんと伝わっていないところが問題なのだろう。</p> <p>どこに持っていったらいいかわからないけれども、取りあえずの窓口が、市役所の人は当然分かっているけれども、市民が分かってないから、困っている。</p> <p>そういうところをいかに周知するのかということが、前回から同じように繰り返されていると思うので、その周知の仕方ということ、ただ事業を立てるだけではなくて、事業が本当に活かされるためのプラスアルファのところを少し考えてもらいたい。逆に、そこを考えなければ、同じことを繰り返すのではないかという危惧があるので、よろしくお願ひしたい。</p> |
| 専門委員 | <p>そういう場面に出会った時は、各地域に、民生委員がたくさんいるし、児童専門の主任児童委員もいる。私はその立場なのであるが、そのような情報が、本人から相談があったり、あるいは地域の、「お隣さんが、ちょっと大変みたい」とか、そういう話があった時に、主任児童委員が出番になり、その情報を行政の子ども総合センターや児童相談所につなげていくパイプ役をしている。地域の民生委員をうまく活用していただければいいと思う。</p> |

会 議 録

| | |
|-------------|--|
| <p>専門委員</p> | <p>先日、要保護児童実務者会議に参加したところ、かなりひどい家庭でも、やはり預けることをしていない。0歳児の子どもで、背中にぼんぼんしたあざが残っていて、その後、4回もいろいろなことがあったのに、それはやはり家庭で見なさいというふうにしてしまった。なぜかと聞いたら、やはり施設にキャパシティーの問題があるということだった。そういうことであれば、はっきり言えば、何をしてもその施設を拡大しなくてはいけない。そして、地獄みたいな所にいる子どもを天国みたいな所に置かないといけない。それが一番優先することだろうと思う。そのことをどう考えられているのかお聞きしたい。</p> |
| <p>事務局</p> | <p>私もその実務者委員会に出席していた。個別のケースとなるため、具体的には説明できないが、施設のキャパシティーの話を挙げたのはまずかったと思う。そのケースについては、基本的に子ども総合センターで、虐待の重症度、その程度が本当に命に関わるくらいの、本当に親と子を引き離さないといけないケースなのか、それとも、まだ何とか、少し傷痕があるけれども、親の理解があって、もう虐待はしないと、そういう約束ができるとか、その辺の子ども総合センターの助言・指導を受け入れる保護者なのかとか、本当に児童虐待が繰り返される環境にあるのか、その辺りをしっかり、実際評価して、最終的に、親子を引き離すまでに至らずに、何とかやっつけていけるのではないかと判断したケースだったと記憶している。</p> <p>基本的に、子ども総合センター、児童相談所のやっていることは、確かに、命に関わるようなケースは、親子を引き離すというのはありますけれども、最終的に、そういう崩れた家庭を再統合するというのが究極の目的になっているので、そういうリスクのあるケースについては、施設措置が全てと思ってはいない。児童福祉、あるいは保健師、その他専門機関がしっかり関わって、そのケースは何とかそのままの処遇で、展開できるのではないかと判断したケースである。</p> |
| <p>専門委員</p> | <p>守秘の義務があるので詳しい話はできないのであるが、その家庭に子どもを置いておく意味は、全然ないだろうと思う。国や行政がすべきことは、そういう家庭から早く子どもを離してあげることが大事なことである。その鬼のような両親のところに置いて、愛情が育つはずがないのであって、そのことを十分考えて対応していただきたいと思う。家庭に残したほうが必ずしも100%いいわけではないのであって、離すべき時は離さなければいけないと考えている。</p> <p>それから、この会議もだいぶ煮詰まってきたのであるが、やはり、大事なことか、大事なことでないかと言うと申し訳ないが、非常に大事なことか、その次に大事なことかの優先順位をある程度決めたほうがいいだろうと思う。全てにお金を振り分けるほど北九州は裕福ではないと思うので、そういう優先順位</p> |

会 議 録

| | |
|----|---|
| 委員 | <p>を考えていただきたいと思う。</p> <p>最後に、委員の意見について、ペリネイタル・ビジットということで、小倉の小児科がやっている。もうすぐ八幡もやる予定になっており、北九州全部に広がると思うが、できれば北九州市の補助があればいちばんよいと考えている。</p> <p>施策（13）「児童虐待への対応」について、貧困の連鎖という言葉があるが、虐待の連鎖もある。この施策を見てみると、予防とはあるものの、学校における命を大切にする授業であるとか、個別ケースの施策を考えると、あまり発生を予防するという部分の根本的なところが抜けているのではないかと。虐待された人が虐待をするというのが、大体のよくあるパターンのはずである。それは、子ども総合センターでも当然把握されていると思うが、そこに対する施策というのが見えてこない。この辺のところを少し考えていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>施策（12）「ひとり親家庭の支援」について、ほかの施策はみな子どものことが書かれているのに、ここだけひとり親家庭の支援となるのが、ちょっと気になった。子どもプランであれば、ひとり親家庭の子どもの支援であっていいのかなと。</p> <p>資料2の概要版では、子どものことで書かれていたのは、下の枠でくくっている「子どもの学習支援など」というところだけで、あとはほとんど、貸付であったり、就業のためとか母親の自立のためだけが書かれている。確かに、母親が自立したら子どももいくらか楽になるのかなという視点は分かるのだが、何か、そこに「子ども」という言葉が一言入ってもいいのではなかという思いがした。</p> <p>素案でも、主に自立のことばかりが書かれてある。確かに自立は必要であるが、子どもの心、父親との面会とか、親子がばらばらになって、父親と母親が別々になっていくとかいう、子どもの心とか、子どもに対する支援的なものももう少し、文言でもいいから欲しいかなという思いがした。</p> <p>先ほど、夫婦でセミナーをするとか、そういう話が出ていた。ある程度セミナーに参加したり、幼稚園の夫婦で参加するものに行けるお母さんや家族の方は、子どもに対して思いがあって、教育的にも考えている、子育ても考えている家族の方だと思う。本当に支援が必要なのは、それができない家庭、お母さんが自分のことしか考えない家庭である。子どもはバスに乗ってもゲームばかり、お母さんはスマホに夢中で子どもの顔を見ないという状態が母子家庭の場合はよくある。もう少し、ひとり親家庭支援のところに、子どもの目線のところも少し入れて欲しい。</p> |

会 議 録

| | |
|------|--|
| 専門委員 | <p>児童相談所では、いろいろなケースで保護されると思う。そのいろいろなケースの中で保護されている場所というのは、どのような所なのか。</p> <p>それから、ある聞いた話では、そこには非行によって入所している子どもも一緒にいるということである。それはどうなのだろうか。いろいろなケースで入所してきて、何もかも一緒にの部屋でというのはどうなのかなと思っている。</p> |
| 事務局 | <p>まず場所であるが、子ども総合センターの4階、ウェルとばたの4階に一時保護所という所がある。定員 40 名であるが、ここで子どもを保護している。</p> <p>どのような子どもかといえば、保護者が病気とか失踪したとか亡くなられたとかいうことで、急に養育をしてもらうことが困難になった子どもでもあったか、あるいは、先ほども話があったような児童虐待で、どうしても一時的に保護者から子どもを分離しなければ、安全が図れないといったような子ども。あるいは、子どものいろいろな問題行動で、保護者から相談があったケースで、一時的に預かってその子どもの行動を観察しながら、また関わり方等を支援していくといったような目的での一時保護。それから、先ほど言われたように、深夜、家に帰らないとか、無断外泊をして警察に保護されてといったような非行系の子どもたちで、保護者も引き取りを拒否するといった場合に、養護が必要ということで預かるようなケースもある。</p> |
| 事務局 | <p>専門委員の質問は、保護所の中で非行系の子どもが入ってきたら、どういう状況になっているのかというのが、主旨だと思う。まず、定員が 40 人であるが、40 人入ったことはほとんどない。まず、非行系で入ってきた子どもは、個室対応としている。それから、入所してからある程度日数がたった子どもや小さな子どもは集団で生活をしていただく。まず、落ち着くまで個室で対応した上で、集団と一緒に活動してもいいなという子どもについては、集団に出していく。そこで指導員が、全部指導していくということである。それが、一時保護所の現状である。</p> |
| 会長 | <p>子どもの状況に合わせて対応はされているということである。</p> |
| 委員 | <p>先ほどのひとり親家庭への支援のところ、委員からひとり親家庭が自立することが主体的になっているという指摘があったのを受けての発言なのだが、私自身が母一人のひとり親家庭で育てている。それで、経済的にはとても困窮した中で育ったけれど、当時、近所の全く他人のおじいちゃん、おばあちゃんが、夕方来ていいよとか、お正月だったら、お餅つきをするからおいでとか、そういったことでお世話になって育ってきたという経緯がある。</p> <p>何が言いたいかというと、ひとり親家庭の施策の中に、学習支援が挙がっているというのは全国的な流れであるが、それは素晴らしいなとは思いつつ、経</p> |

会 議 録

| | |
|-----|---|
| 会長 | <p>済的に裕福でないから、例えば、お母さんが働いて夕方遅くなるというときに、放課後児童クラブに預けるお金がないわけである。それで、夕方1人で過ごすというような状況になるのではないかと想像しているのだが、そういったときに、やはり地域の支えが必要なのではないか。本当に、私が子どもの時代のようにはいかないとしても、そういったことを支え合うというようなことを一言盛り込んでいかなければ、自立することはもちろんであるが、ひとり親家庭だけで何とかなるものではないと思っているので、子どもの育ちを考えたときに、そういったことが入れられないかなと感じた。</p> <p>それを「ひとり親家庭の支援」の施策の中に特化して盛り込むか、それとも、一応、全体の理念のところ「地域社会全体で支援する視点」とあるので、そこをどうするかは事務局で考えて欲しい。</p> |
| 委員 | <p>確かに地域で民生委員にも支援していただいている。高齢者に対する民生委員の訪問などはあるのだが、ひとり親家庭の場合は、なかなか訪問が難しいというものがある。</p> <p>日常生活支援事業というものがあり、うちの支援員が、ひとり親家庭の子どもを見に行くというものであるが、なかなか周知されていないのか、利用率はだんだん下がっている状態である。とても便利のいい支援施策なので、使ってほしいな、もっと周知していきたいと思っている。</p> <p>地域で支えていただくような体制、高齢者は支えていただいている部分が多いのであるが、子どもに対しても、ひとり親家庭に対しても、何か支えるような体制づくりをお願いしたいとともに、私どもも一生懸命やっていきたいと考えている。</p> <p>それから、やはり愛情不足が一番だと思うが、ひとり親家庭は非行の家庭が多い。地域ということで、今日、地域の学校の先生、小学校、中学校の先生と保護司との交流会を開催した。そのように、地域の子どもの状況を先生方とも話し合えるような環境ができればよいと考えている。多分、自治会などでもやっていることと思うが、できればひとり親家庭にも少し目線をいただければと思う。</p> <p>学習支援について、ひまわり学習塾という貧困の子どもたちに対する塾を教育委員会が始めるということ聞いた。詳しい話を聞かせて欲しい。</p> |
| 事務局 | <p>ひまわり学習塾は、平成26年度から事業として開始している。ただし、ひまわり学習塾は、基本的に、基礎的、基本的な学力を身に付けさせるための施策であり、ひとり親家庭、生活困窮家庭の子どもを対象という形で限定しているものではない。</p> <p>今年度から小学校31校、中学校11校で展開しているので、ぜひ活用して</p> |

会 議 録

| | |
|-----|--|
| 委員 | <p>いただきたい。</p> <p>先ほどの委員の意見に対して、反論ではなくて、なるほど確かにそういう場面もあるなということなのだが、私には危機感を持っている。</p> <p>私は、スタンダードというものをすごく大事にする。やはり、教育の世界に身を置いているからか、社会をつくる側、スタンダードにして、支えていく側の人間がどれだけこの世の中にたくさん生まれてくるだろうというのが、やはり気になる。</p> <p>この会議のメンバーは素晴らしいメンバーだと思う。では、30年後同様に、こういう各団体からメンバーを集めたときに、社会を支える側の人間がいるのだろうか。いや全員が助けてくださいと言い出したら、社会は一気に崩壊するなというふうに私も思っている。だから、私はやはり、スタンダードを支えようとする側の人間の危機感、この30年後の北九州は、大丈夫だろうかという思いがすごくある。私の立場を少しだけ話させてもらった。</p> |
| 事務局 | <div data-bbox="456 994 1348 1064" style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin-bottom: 10px;"><p>(4) 第4回会議の非公開について審議</p></div> <p>この会議は、原則公開であるが、次回の会議では、審議の一部を非公開としたい。</p> <p>次回会議では議事を3件検討していただく予定である。会議の前半では、次期計画素案の子ども・子育て支援事業計画部分の検討であるが、この部分は公開の会議となる。</p> <p>会議の後半では、「元気発進！子どもプラン」に基づく平成25年度事業の点検評価、それから、北九州市子ども・子育て会議に認定こども園部会を設置することの2件の議事について審議していただく。この部分について、会議を非公開としたいと考えている。</p> <p>その理由は、この2件の議事では、評価の過程にある情報、あるいは市議会において議決をいただく必要のある案件で、次回会議の時点では未確定の内容を含む情報を、皆様にお示しして検討していただく。公開の会議では、これら未確定の情報が公になることとなり、混乱を招くなど、好ましくない状況が生じる可能性があると考えている。</p> <p>これは、北九州市の情報公開条例第7条5に定める、公開の対象とならない場合に該当するため、付属機関及び市政運営上の会合の運営及び委員等の選任等に関する要項の第5条により、会議の一部、この2つの議事を審議する後半の部分について、非公開とするものである。</p> <p>ただし、当会議による審議を行い確定した点検評価については、市議会に報告した後、市のホームページで公開するため、点検評価の内容を今後一切公開</p> |

会 議 録

| | |
|----|---|
| 会長 | <p>しないということではない。</p> <p>また、北九州市子ども・子育て会議に認定こども園部会を設置する件についても、今後市議会で条例議案として審議していただくこととなる。こちらについても、今後も内容を公開しないというものではない。</p> <p>事務局から説明があったように、次回の会議の一部、具体的には、「元気発進！子どもプラン」に基づく平成 25 年度事業の点検評価と、北九州市子ども・子育て会議認定こども園部会の設置の 2 件について審議する部分は、非公開としたいと考えるがよいか。</p> <p>(委員一同「異議なし」)</p> |
| 会長 | <p>異議なしということで、そのように決定する。</p> <p>【閉会】 16 : 30</p> |